

消防庁長官表彰 危険物の取り扱いに功績 日本通運株式会社大竹支店

問い合わせ 消防本部 ☎ 03-1048

6月4日、日本通運株式会社大竹支店が、平成30年度優良危険物関係事業所消防庁長官表彰を受賞されました。

この優良事業所表彰は、危険物関係法令の順守、危険物の保安上の措置、危険物の安全管理に関する教育の徹底などに顕著な功績のあった危険物関係事業所を対象としています。

日本通運株式会社大竹支店 支店長 林義弘さん

大竹支店に赴任して感じたのは、日本有数の石油コンビナート地帯であり、危険物を取り扱う方々が絶対に事故を発生させないために、さまざまな取り組みを実施し、ルールを徹底して順守するという職場を構築していました。当社においても皆様と同等以上の意識・品質を保持しなければならないと考え、従業員一丸となって取り組んで参りました。



市役所ギャラリー作品展示【写真】

とき 11月30日(金)まで
ところ 市役所ギャラリー(市役所本庁舎2階)

題名	氏名
いりひ 1	百鳥 健一
晴れ舞台	上河内 寿夫
ひな流し	泉 泰浩
朝日を浴びて	中川 貴
薔	畠中 耕治
疾走	橋本 勝英
藤暖簾	長谷山 勝英
銀杏木	岡山 茂
吐息	小田上 健二
白魚雲	畠中 紗
漁火	豊原 優
ファミリー	大田 佳代子
ガク紫陽花	森本 勝三
春風	森川 淳
ナイスキャッチ	秋本 博正

(敬称略)

浮いて待て

小方学園プール

小学校高学年、中学生が年間を通じていろいろなことを学ぶ「KOIKOIジュニアリーダーズクラブ」のプログラムの一つ、着衣水泳に挑戦しました。水難学会指導員の山岡和子さんが、水で溺れそうになったときの心得「あわてず」「あればれず」「ういてまつ」が大事だと力説。無駄な体力を消耗せず、じっと浮いていることが救命率の向上につながるといいます。

浮く体勢を学んだ後、3分間浮かんだままの耐久レースに挑戦。最も体勢が安定していた柴田吏咲さん(小方小6年)と森本隼平くん(大竹小5年)がMVPに輝きました。柴田さんは「泳ぎはあまり得意ではないけど、学んだおかげで、ちゃんと浮かぶことができました。家族にも教えてあげたい」と話してくれました。



身長が190cmあるパトリックさん。笑いを交えながら参加者とノースカロライナの話を共有した。

聴いて、見て、知って、異国の文化

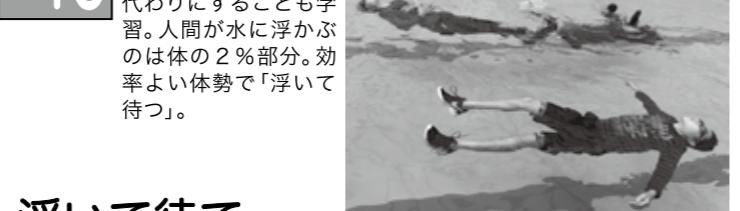
ギャラリーおおたけ

外国の文化や歴史などを理解する機会として大竹国際交流協会が国際理解講演会を開催し、41人が参加しました。アメリカ出身のパトリック・シーゴクさんが「ノースカロライナを探検しよう」をテーマに講演。よく知っているようで、まだ知らないアメリカの話を聞いて、参加者は知識を深めています。最後の質問タイムでは、「Are you married?」など英語で講師に質問し、異文化交流を楽しみました。

(敬称略)

7
15

ペットボトルを浮き袋代わりにすることも学習。人間が水に浮かぶのは体の2%部分。効率よい体勢で「浮いて待つ」。



浮いて待て

小方学園プール

小学校高学年、中学生が年間を通じていろいろなことを学ぶ「KOIKOIジュニアリーダーズクラブ」のプログラムの一つ、着衣水泳に挑戦しました。水難学会指導員の山岡和子さんが、水で溺れそうになったときの心得「あわてず」「あればれず」「ういてまつ」が大事だと力説。無駄な体力を消耗せず、じっと浮いていることが救命率の向上につながるといいます。

浮く体勢を学んだ後、3分間浮かんだままの耐久レースに挑戦。最も体勢が安定していた柴田吏咲さん(小方小6年)と森本隼平くん(大竹小5年)がMVPに輝きました。柴田さんは「泳ぎはあまり得意ではないけど、学んだおかげで、ちゃんと浮かぶことができました。家族にも教えてあげたい」と話してくれました。

7
14



身長が190cmあるパトリックさん。笑いを交えながら参加者とノースカロライナの話を共有した。

聴いて、見て、知って、異国の文化

ギャラリーおおたけ

外国の文化や歴史などを理解する機会として大竹国際交流協会が国際理解講演会を開催し、41人が参加しました。アメリカ出身のパトリック・シーゴクさんが「ノースカロライナを探検しよう」をテーマに講演。よく知っているようで、まだ知らないアメリカの話を聞いて、参加者は知識を深めています。最後の質問タイムでは、「Are you married?」など英語で講師に質問し、異文化交流を楽しみました。

(敬称略)



カメラスケッチ

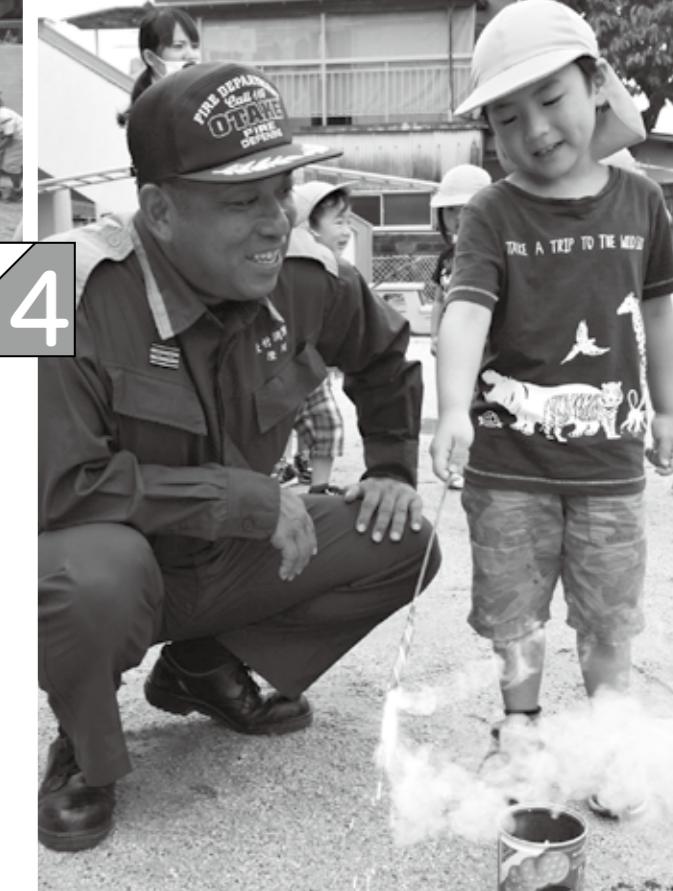


(上)火のついた花火を振り回すと危ないと、寸劇では消防職員と保育士が熱演。(右)1本ずつ火をつけて体験。消防のおじさんも思わずニッコリ。

7
4

安全に花火で遊んでね

本町保育所



消防本部の職員が、保育所や幼稚園を巡回し、子どもたちに正しい花火の遊び方を教える「こども花火教室」を開きました。悪い遊び方の例を寸劇で演じてみせる「子どもたちからは「ダメ」という声が上がります。」と、子どもたちから「ダメ」という声が上がります。「子どもだけでやらない」「人に向けない」「終わった後は水につけて消す」などの声が花火を体験しました。この取り組みは、花火に関する保安体の協力により、花火の提供を受け、消防本部が昨年から行っているものです。



（左）脇田くん。手も採った
（右）手のひらに見えてくれた



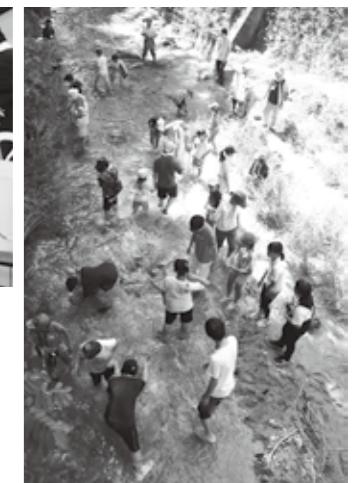
7
14



（左）ここに
ドジョウが



（左）下倉夕日くん（小2年）
（右）こたか（小2年）
の魚は何かな？



栗谷小学校

環境整備課と広島県環境保健協会の生物調査員による「川の生き物観察会」は、小・中学生69人と保護者が参加しました。

豪雨の影響で川が増水していたため、予定していた玖島川親水公園ではなく、小学校裏の支流に入ります。調査員から網の使い方や水に入るときの注意事項を教わり、ドジョウやカエルをつかまえました。

ドジョウをすぐった脇田悠希くん(大竹小6年)は、「大きい岩のところに隠れていた。つかまえてうれしい」と、網の中を見せてくれます。

採集した生物を、きれいな水にすむもの、汚れた水にすむものと分類し、水質を調べると栗谷の川は高ランク。美しい環境の大切さを学びました。

(左)お父さん採れた? (下左)カメのオスとメスの見分け方は分かるかな。
(下右)猛暑の中、川は気持ちいい。

OTAKE 2018(平成30).8 14